

Spotlight [スポットライト]

術後疼痛管理チーム

質の高い疼痛管理を推進し、 患者様の早期離床を目指す。

麻酔科・看護部・薬剤部による多職種チーム

「術後疼痛管理チーム」は、2024年4月に設立されました。麻酔科医、中央手術部看護師、薬剤師で構成され、術後の痛みを軽減するために活動しています。鎮痛効果や副作用、合併症の有無、離床の程度などを評価し、適切な管理を行います。

術後の痛みを軽減しないと、術後せん妄を引き起こす、呼吸が浅くなり痰が出せず呼吸器合併症が発生する、血圧が上がり心臓に負担がかかる、動けずに血栓ができやすくなるなど多くの問題が生じます。当院が目指す「早期離床」が難しくなるのです。

術後の痛みを管理するために、「多角的疼痛管理」という考え方を取り入れています。異なる種類の痛み止めを組み合わせて使うことで、効果を高め、副作用を最小限に抑える方法です。また、術後24時間は特に痛みが強いと予想されるため、先に薬を使って痛みをコントロールする「先行鎮痛」も行っています。定期的な薬の投与は、主治医と連携して行います。

チームでは手術前に患者

さんへ痛みの管理について説明し、不安を軽減するように努めています。例えば、「どのように痛みを管理するのか」「薬が効かない場合はどうするのか」といった説明を行います。

ほかに、毎朝9時にチームメンバーで回診し、疼痛管理がうまくいっているか確認しています。回診の際に患者さんから「手術後の痛みが怖かったけど大したことなくったよ!」という言葉をいただくこともありました。

痛みの感じ方や考え方は人それぞれであり、術後の痛みを「我慢しなければならぬもの」と考える方も多くいます。ですが、術後疼痛管理を行うことで、早期離床が実現し、平均在院日数も減少することが期待できます。何よりも、患者さんの日常生活に良い影響を与えることができます。

私たちは、患者さんと医療従事者の両方に術後疼痛管理の重要性を広め、共に快適な術後生活を目指していきたいと考えています。